

| | | |
|--|--|--|
| 0. 報告日：2011年 8月 12日(金) | | |
| 1.参加期間と場所：2011年 7月 25日(月)～30日(土) 大韓民国・釜山大学 | | |
| 2.申請者と所属チーム | | |
| 資料作成者 | (所属、学年) 大分大学大学院工学研究科 建設工学専攻博士前期課程2年 (氏名) 野口 浩平 | (所属チーム名称) B5_JO2 (構成員氏名、大学、学年) 自身を含む員 Dyah Fatma、九州大学、M1 Kohei Noguchi、大分大学、M2 Seiji Taketazu、大分大学、M1 |
| 3.感想と今後の抱負 | | |
| <p>私は今回で三回目の参加となりました。このワークショップは短時間で一つの作品を完成させるというかなりハードな日程で進められます。さらにグループ単位での提案となりますので、自分の意見を相手に伝えること、相手の意見を理解すること、その中でグループの意見としてどうまとめるかといった、ディスカッション能力が試されます。</p> <p>またこのワークショップは、中国・韓国の学生とコミュニケーションを取る良い機会でもあります。一緒に食事をするときの何気ない話から、建築に関する話まで幅広い会話を楽しむことができます。完成したボードの展示会では、同じ世代の他の国の学生はどういった考えを持って建築に取り組んでいるのかを見ることができます。</p> <p>今年例年と比べて、中国の学生が話しかけやすい印象を持ちました。ただ単に私が3回目慣れていたせいなのか分かりませんが、良く話をしました。そして、何とんでも日本チームの提案が三案全て BRONZE に留まったことが一番の反省点ではないでしょうか。GOLD は中国で、SILVER は中国と韓国、悔しいですね。私のグループの話をする、デザインは良いけど、コンセプトが理解されにくかったかなと思いました。しかし、GOLD の提案はコンセプトだけで建築的な提案に至ってはいないし、SILVER の中国の案はデザインもヘタクソだと思いました。それだけに悔しい。SILVER の韓国の案は良かった。ただ、中国の二つの案は国際コンペらしい提案だったと思いました。特に GOLD のボードのデザインは、日本にいたのではお目にかかることは少ないでしょう。国際コンペの楽しさを知った今回のワークショップでした。次は負けたくないこれからも精進したいと思います。</p> | | |
| 4. 提案作品 | | |
| タイトル | GIVE A NEW MEANING FOR MEETING IN 40 STEPS | 概要 |
| 現在の 40 Steps は連立する建物と、絶え間ない自動車交通によって歴史が感じられない状況にある。自動車の交通を抑制し、40 Steps の前に大きなオープンスペースをつくる。かつて 40 Steps を介して生まれていた出会いを、新たにこの場所で再生する。弧を描くようにデザインされた建物を取り囲んだ中央のオープンスペースでは、時間の変化に合わせて様々なアクティビティが生まれる。 | | |

